

SVA

2007年度中間事業報告

2008年度事業計画案

(2007年度の成果と課題／2008年度の主な取り組み)

社団法人シャンティ国際ボランティア会

1) タイ事業

事業名	2007年度中間事業報告(成果)	2007年度の課題	2008年度事業計画案(●重点事項)
基本方針	①南タイ・奨学金・図書館事業の評価を実施。 ②スアンプルー住宅建築遅延によりコミュニティセンター建築開始が遅れたものの、7月に完成。	①政情不安により諸活動に影響。労働局との交渉難航など。 ②06年のクーデターから続く政情不安によりアジア子ども文化祭が中止となった。	①スアンプルー地区図書館開所式(2月)。 ②スアンプルー復興支援事業評価活動。
図書館事業 (保育士研修活動含む)	①コミュニティ図書館利用者数—52,103名。うち子ども45,740名(南タイ・スアンプルーを除く5館)。 ②移動図書館—公演数112回、利用者数13,072名。 ③保育士対象の研修会—4回実施、参加者数180名。 ④6館のうち2館の図書館運営委員会が地区行政への運営移管の交渉活動を活発化。 ⑤図書館スタッフ能力向上のための合同セミナー開催。	①スタッフ体制：体制変動による活動の非効率化への対策。 ②資金調達：タイ国内での安定した資金調達。	①現存コミュニティ図書館の3年後の地域移管を目指し、地域への働きかけを強化する。 ②移動図書館活動の目的・成果を明確にする。 ③ミャンマー国境沿いの農村支援を含め新規対象地の調査を進め、準備態勢を整える。
奨学金事業	①一般の奨学生452人、学生寮の奨学生80人、計532人に奨学金を支給。(内訳：中学272人、高校215人、大学16人) ②各奨学生の詳細プロフィールを翻訳し、データ化してデータベースで管理。 ③9月までに入金があった支援者に報告書送付9割方終了。 ④日タイ両言語による作マニュアル作成進む。	①奨学生情報がデータのソフト面での問題により、データ入力・作成が難航。 ②マニュアル作成(事業の流れ、選考基準、データ入力)のための情報整理。 ③奨学金事業と地域開発事業の協力により青少年参加地域開発を進める。	①日タイ両言語共通の作業マニュアルおよびを作成する。地方、バンコク、日本との役割分担を明確化し文章化する。 ②データの正確化、均等化を行う。 ③都市スラム、北部山地民、東北部の農村における、子どもたちの就学率をさらに向上させるため、前年度と同様、奨学金の支給対象者を継続する。
中高生学生寮	①食用の野菜、香料等を時期に応じて収穫。 ②チェンカーン地区で東北地方の奨学生キャンプ参加。 ③スラム地区でHIV撲滅運動のキャンプに参加。 ④各地の図書館及び学生寮にて伝統舞踊、楽器、手芸の練習および、時期に応じて発表。	①農業用地の活用。 ②青少年育成活動の充実。 ③伝統文化継承。	①農業用地の活用：実習と食用の実用を兼ねて。 ②青少年育成活動の充実地域での奉仕や交流活動。 ③伝統文化継承各々のもつ独自文化による舞踊や楽器演奏、手芸技術の継承。
研修・交流事業	①10月18日現在で、82グループ、448人を受け入れた。 ・春休み、夏休みは学生の研修旅行が多い。 ・8月に2人の海外研修生、アグネスチャンを受け入れた。	①訪問依頼の中から選別、選考し受け入れを決定。観光地目的の訪問者が多くなり、現地スタッフの負荷が大きい。	①ダブルディスタップが08年も引き続き日本で研修。 ②日本人2人体制になるが、引き続き多くの訪問が予想されるため、効率的に受け入れるようにする。
緊急救援 (スアンプルー・スラム火災)	①保育所、図書館、地域会議室を併設したコミュニティセンターの建築を実施し、7月に完成した。 ②保育園が8月、図書館が9月より活動を開始した。 ③スアンプルー地区、およびその周辺地区の中・高校生62名に対し、5月奨学金の支給を行った。 ④地域住民と行政の会議に出席、調整を補佐した。	①コミュニティセンターの地区内外住民への認知度を高める。 ②住民の住居登録が困難であるために行政との交渉を支援。	①08年2月24日に開館式を予定。 ②図書館・保育園運営。 ③住民支援のためのセミナー・ワークショップの開催。 ④奨学金支給。

緊急復興支援 (スマトラ沖地 震津波)	①コミュニティ図書館運営の利用者数 18,780 名。 ②移動図書館活動実施の利用者数 4,892 名。 ③図書館の地域移譲のため、行政との調整会議を実施。 ④対象地域の学生 98 人に 5 月に奨学金を支給。	①ハンドオーバー先である地域行政の人事異動など、予測不可能な事態への柔軟な対応。	①常設図書館活動の側面支援。 ②常設図書館ハンドオーバーのための調整・会議。
管理・運営	①図書館事業コーディネーター、ドゥッルディの人材育成基金を利用した日本での研修実施。07 年 10 月から約 10 ヶ月。	①シーカーアジア財団の事務局体制の強化。	①新しい人事体制のもと、管理・運営の効率化を図る。

2) カンボジア事業

事業名	2007年度中間事業報告(成果)	2007年度の課題	2008年度事業計画案(●重点事項)
基本方針	①チーム・ワークと各事業間の連携・協力が、06 年度より促進された。 ②カンボジア人スタッフを中心としたプロジェクト運営、組織運営がより促進された。 ③迅速な報告が昨年より進んだ。 ④各種専門研修と全体研修が実施された。	①学校建設事業以外の事業の民間からの資金、特に伝統文化、スラム事業の民間の資金の獲得が国内外で不足している。 ②06 年から 07 年にかけて2台の新車が寄贈されたが、まだ、安全に運転出来る車が不足し、事業の円滑な運営に支障。老朽化した車両により事故の危険性と隣り合わせの状態。 ③数年まえから遅滞していた事業報告書等の送付の改善のため、多大な尽力を必要とした。	■SVA全体の「使命」を果たすために、スタッフ全員が「情熱」を持って、共に「夢」の実現を目指す「Mission, Passion, Dream」の共有理解者・支援者を増やすためのカンボジアへのさらに訪問者を増やす。 ①カンボジア人スタッフによる、プロジェクト運営、組織運営能力の向上。 ②プロジェクト間での協力体制の強化に努め、事務所全体のチームワークをより高める。 ③各研修を通じて、スタッフ各自の能力強化に努める。 ④事務所運営により多くのスタッフが参画できるよう、各個人の職責と役割を明確にする。 ⑤数年前から続いていた支援者に対する事業の報告の遅れを改善し、迅速な報告と情報の提供。

<p>図書館事業</p>	<p>①JICAとの草の根技術協力事業が、本格的に開始し、7月にシムリアップ事務所を開設した。 ②コンポントム州で3回の「おはなし」に関する研修会を開催。教師ら379人が参加。 ③図書の配布。クメール語絵本、日本からの絵本、紙芝居等、31,960冊を配布した。 ④全国「おはなし大会」の開催。全国10州から60人の代表が参加してプノンペンで教育省と共催で開催。同時に参加者に600冊の絵本を配布。 ⑤移動図書館。新移動図書館車が今年から入り活動が円滑になった。6月末までに60回、11,695人が参加。</p>	<p>①資金調達 JICAの草の根技術協力事業が新たな3年間開始されたものの、出版関係の資金調達が予定通り進んでいない。そのため、新たな本、また、人気のある本が不足している。印刷費の高騰も問題。 ②JICAの草の根技術協力事業が開始。教育省内での委員会の設立が遅れたために予定より事業が遅れた。 ③教育省と州の教育局との連携の強化。 ④図書の在庫管理のシステム化が遅れていた。</p>	<p>①JICAとの新規事業の成功のために教育省との連携強化とシムリアップ州教育局との連携の強化。 ②新しい対象地域としてアンコールワットのあるシムリアップ事務開設された小学校における図書館事業の国家的モデルの活動を展開。 ③教員養成学校におけるモデル図書館の2館の建設。 ④絵本、紙芝居の印刷・出版の増加。 ⑤移動図書館のサービスの質の向上。 ⑥スタッフの能力向上と社会の変革に併せた魅力ある新しいプログラムの導入。 ⑦中心校から衛生校、辺境の学校への本を届ける模索。 ⑧在庫管理のシステム化の徹底。</p>
<p>学校建設事業</p>	<p>①遅れていたNGO支援無償による学校2棟が3月末完成。 ②06年度分の5校が建設完了。 ③07年度分、5校建設中。(6月末現在) ④学校建設の調査、建築・指導・調査期間を利用した移動図書館の参加、4500人。 ⑤新規2007年度の学校建設計画のための交流・ツアー：州、郡の教育担当官、村の教師ら36人が参加。 ⑥トイレの使用法・衛生研修会：2007年対象校全校にて開催。 ⑦6月までに対象建設校、7校に250本の住民参加による植林。 ⑧州、郡、村の教育関係者を対象に学校建設基準の作成。</p>	<p>①車の老朽化により常に故障、修理費の増加、安全面で大きな問題となっている。 ②異常気象に起因する予期せぬ大雨、洪水のため、橋や道路の崩壊により建設作業が遅れが見られる。 ③政府が木材の違法伐採や販売に対する規制を強化させたため、建設用の木材の運送も取調べが厳しくなり、運搬に時間がかかる。 ④ガソリンの高騰に起因する建設資材の価格が高騰しており現在の価格での建設が限界状態。</p>	<p>①対象地域 コンポントム州をメインの対象地とする。2007年より開始したシムリアップ州で基本的に対象地とする。 ②学校建設 14棟を建設予定。 ③対象地域の調査 2008年度の計画のために、コンポントム州とシムリアップ州の調査を引き続き行う。 ④校舎の維持と保健衛生に関する研修会。 ⑤学校運営強化のためのスタディーツアー。 ⑥『夢の学校』アプローチ 州教育局、郡教育局と協力し、独自の学校設置基準と長期的マスタープランによる『夢の学校』をモデル化する。</p>

<p>プノンペン・バサック・スラム教育文化支援事業</p>	<p>①80 スラムの地域図書館を8月末で閉館。3,576人が図書館を利用した。 ②パートボランティア・スタッフによる移動図書館活動には、6ヶ所のスラムで3,676人が参加した。パートスタッフ、10人は8月末で全員解雇。 ③新スラムスタッフ、女性2人を9月より採用。 ④9月より新小型移動図書館車による移動図書館の開始。 ⑤スラムの移転地、トロンビアン アンチャン小学校、312人の困難な子どもたちに学用品の支援。</p>	<p>①プノンペンの各スラムで立ち退き問題が深刻化し、地域に根付いた計画的な事業が行い難い。 ②常任のスタッフが一人だったために活動が限られたが、9月から二人の女性スタッフを採用した。 ③スラム全体の予算不足から移動図書館活動の機材、本が不足している。</p>	<p>①プノンペンのスラムで初めての本格的な移動図書館活動を実施。 ②新スタッフの能力強化のための研修を実施。 ③スラム事業の中長期計画の作成。</p>
<p>文化支援事業</p>	<p>①寺院を中心とした環境保全に関する研修会 開催 218人参加。 ②伝統文化・芸能の保存に関する研修会 311人。 ③仏教寺院を中心とした植林活動の継続。 ④クメール語文法書の出版と配布、2,500冊。 ⑤僧侶のためのアンコール遺跡研修ツアーの開催。</p>	<p>①コンポントムでの新規の植林事業の州政府との許可に時間を要したが今は解決。 ②石油価格の高騰で、印刷費も上昇。</p>	<p>①自然環境保護における仏教寺院の役割：溜池設置、苗木作り、植林、関連の研修会開催。 ②伝統文化保護における仏教寺院の役割：プレイヴェン州で研修会開催。 ③コンポントム州の寺院調査。</p>
<p>管理・運営</p>	<p>①広報活動の一環の「SVA カンボジア NOW」を毎月定期的に送付して好評を得た。 ②Tシャツの販売が飛躍的に伸びた。</p>	<p>①継続的な民間の事業運営資金の不足。 ②各事業の国内外での資金調達のための広報物の不足。</p>	<p>①東京事務所との効果的連携による民間の継続的な資金の調達を行う。 ②資金獲得を行うための効果的且つ魅力的な情報、広報物の作成と広報活動の強化。</p>

3) ラオス事業

事業名	2007年度中間事業報告(成果)	2007年度の課題	2008年度事業計画案(●重点事項)
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ①各事業の運営能力については、一層の進歩を見ることができ、日常の事業運営、報告はほぼ問題なく現地スタッフが行えている。 ②ただし、事務所のリーダー育成の面では、まだ事務所のマネージメント全般を任せられるスタッフに欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ラオス人コーディネーター間の協力体制の強化とリーダーの育成と各分野の更なる能力育成が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ①08年のMOU(ラオス政府との覚書)契約更新に向けて、8年度前半には政府、関係各所と交渉、コンサルテーションを開始する。08年9月の契約を目指す。(08年から3年間)
図書館と青少年事業	<ul style="list-style-type: none"> ①ヴィエンチャン市公共図書館は開館からほぼ1年で、まだ課題はあるものの通常の運営は問題なくサービスできている。 ②JICA 草の根P事業の「公共図書館支援」では、ヴィエンチャン県に新図書館が完成し、運営も軌道にのっている。 ③ドンカムサーン教員養成学校内のモデル幼稚園の建設が無事終了。研修会、カリキュラム改善などの活動が進行中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ヴィエンチャン市公共図書館事業では、建設後の支援体制が課題となっている。 ②ヴィエンチャン市図書館に関わるエフアジャパン(自治労の作ったNGO)との役割分担、お互いの棲み分けをはっきりさせること。 	<ul style="list-style-type: none"> ①08年11月に終了するJICA 草の根P事業は、第2フェーズ(2009年～2011年)を申請する予定。そのため、2008年4月-5月に事業の最終評価と次期フェーズへの提案書の作成を行う。 ②モデル幼稚園と幼児教育は、茨城アジア教育基金を支える会、CLAIR との共同で「幼児教育研修会」の実施、カリキュラム改善のための研究会を行う。
アジア子どもの家事業	<ul style="list-style-type: none"> ①伝統文化活動では、踊りのグループが、ベトナム、中国、タイ(SEAgame)などにヴィエンチャン市、国の代表として招聘された。 ②施設の老朽化が進んでいることから、緊急的に修繕を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの家の活動に対しての新しい支援者、資金を探す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの家の運営資金を支えてくれる新しい財源、スポンサーを探し、安定的に運営できる基盤を確保すること。 ②施設老朽化に伴う「子どもの家」リノベーション計画を更に煮詰め、資金獲得の道を模索する。
学校建設と村ぐるみの教育改善事業	<ul style="list-style-type: none"> ①NGO 支援無償の契約の遅れから延期されていた、リソースセンター3棟、小学校1棟の建設、各種ワークショップの実施が終了した。 ②少数民族の児童のための教材作成配布事業は教材の製作が進行中。2007年中に終了予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ①民間からのより多くの資金協力が望まれる。特に学校建設事業。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ボリカムサイ、サラワンの2県4つの学校群を対象に、学校建設と教員研修、図書館活動と父母会活性化からなる統合的な教育支援活動を継続して実施。 ②サラワン県全域で少数民族児童を対象とした教材の配布と研修会を実施する。
管理・運営	<ul style="list-style-type: none"> ①ナショナルスタッフが現地の会社、団体にプロポーザルを出して資金を獲得し、「第2回識字イベント」をアメリカのNGO/Room to Read と共催。来場者3,000名。 ②経理スタッフの合同研修を行い、SVA のスタッフとしての意識、経理業務の共通化などの面で大きな進歩があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①事務所の管理運営のための研修と担当スタッフの能力向上が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ①現地スタッフの国内外での研修の充実。 ②他海外事務所のナショナルスタッフとの交流や合同研修会、事務所訪問などの機会の創設。 ③特に経理業務の各国の共通化と統一化を進める。

4) ミャンマー(ビルマ) 難民事業

事業名	2007年度中間事業報告(成果)	2007年度の課題	2008年度事業計画案(●重点事項)
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ① 日常業務の中で、現地スタッフに対する業務委譲を随時実施。事業運営イニシアチブの多くは現地スタッフにある。 ② 新規支援者獲得はあまり伸びていないが、既存支援者の理解と協力が継続されている。 ③ 「ミャンマー(ビルマ)の出稼ぎ労働者コミュニティにおける図書館活動の実施検討」は、本体事業及びタイ貧困村支援に集中したため、資料収集のみに留まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 資金面では、UNICEF 助成金に変わってボランティア貯金配分金で多少カバーできた。民間資金の事業収入は厳しい。 ② 5月に日本人調整員を新規採用、8月に所長が交代。日本人2名体制で業務分担や各方面との調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 東京事務所と協力しながら、事業指定募金、CBS などの新規支援者が増えるよう、より幅広い広報活動も展開する。また、既存の公的資金が継続支援されるよう調整しつつ、新規の助成金なども積極的に開拓する。
図書館事業	<ul style="list-style-type: none"> ① 図書館修理：民間支援者及びUNHCRの資金によって実施、耐久資材の活用により、図書館施設が強化された。 ② 研修会実施：恒常的な図書館員研修の他、移動図書館研修会では合計 259 人の参加者を得た。絵本を通じた親子ふれあい活動研修会も、母親に絵本の重要性が伝えられた。 ③ 図書館青少年ボランティア活動：各キャンプ平均 20 名計 140 名の若者が人形劇やゲームイベントを組織した。 ④ 絵本出版：担当スタッフの退職により、出版する作品の選定や編集に遅れが生じた。 ⑤ 伝統文化活動：タナキクロ、トートゥ、カナの 3 種類の伝統楽器と伝統舞踊のコースを実施。 ⑥ 周辺タイ村支援：シーカーアジア財団(SAF)の協力を得て、ターク県ターソンヤン郡の保育所及び小学校を対象に、移動図書館活動研修会を実施。30名を超える参加者に図書箱も配布した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 第三国定住政策により、図書館員、青少年ボランティア、伝統文化活動講師、図書館委員会メンバーの交代が多発。とりわけ新規図書館員への研修にはより多くの時間が必要。 ② 図書館員の異動があっても活動が滞らないよう、諸活動の統合化をもってサービス効率化が望まれる。 ③ 活動の焦点化、優先順位付けを図り、質的改善も必要。 ④ 「伝統離れ」傾向の子どもたちをいかに引き付けるかが課題となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 既存の図書館建物の拡張・改築。 ② 児童書配布(新たな絵本 25～35 タイトル、但しタイ:15、日本:10～20)。 ③ 成人用図書配布(50～60 冊の新刊本/毎月一館)。 ④ 絵画、工作、折り紙などの文化学習活動。 ⑤ 図書館員研修(年 2 回、内 1 回は合同)。 ⑥ コミュニティの青少年、大人対象の文化活動。 ⑦ 伝統文化活動(伝統楽器・舞踊中心)。 ⑧ 図書館委員会の運営能力強化。 ⑨ カレンの民話や歴史の収集・記録。 ⑩ 絵本コンクール実施。 ⑪ 図書館活動などのデータ収集・記録。 ⑫ 作家・イラストレーター養成研修。 ⑬ カレン図書編集委員会研修。 ⑭ 小学校と保育園への図書館活動と教員研修。 ⑮ 図書館員による紙芝居・ペープサートの出張公演。 ⑯ 絵本を通じた親子ふれあい活動。 ⑰ キャンプ周辺タイ貧困村での小学校読書推進活動。
管理・運営	<ul style="list-style-type: none"> ① 経理業務は、東京事務所の指導、ラオス事務所研修、事務所間合同研修など、研修機会が充実。一方、図書館事業及び総務は業務上研修(OJT)が中心であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 図書館事業スタッフの業務報告フォーム・システムの改善。 ② 人事管理ファイルの充実。予算管理資料改善の必要性。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 現地スタッフを中心とした事業及び事務所運営能力を更に強化する。組織内外、国内外を問わず能力強化に役立つ研修の機会を提供する。 ② より効率的、効果的に事業目標が達成できるよう、事業運営のシステム及び事業を支える総務経理のプロセスを改善する。

5) アフガニスタン事業

事業名	2007年度中間事業報告(成果)	2007年度の課題	2008年度事業計画案(●重点事項)
基本方針(管理運営含む)	<ul style="list-style-type: none"> ①総務・経理部門の強化を行った。当初の1名から2名の常駐職員を配置した。 ②経理関係の能力強化を予算会議に併せて行った。 ③治安不安に併せて、アフガン人現地職員を副所長に昇格し、現地職員である程度事業の運営管理が出来る体制を構築した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新規ご支援者の開拓による財政基盤確立。 ②総務部門の事務標準化による事業支援体制の強化。 ③業務マニュアルの整備。 ④国内全体に治安不安の傾向があった。(日本人職員の一部退避など) 	<ul style="list-style-type: none"> ①図書館事業及び学校建設事業を継続的に実施する。特に日頃接する厳しい環境下にある子どもについては、常にどのような支援が出来るか具体的に考え対応していく。新たに州政府と協力して「新子ども図書館(仮称)」を開設する準備に着手する。 ②特に総務及び事業調整員の実務能力強化に努め、幹部育成にも努める。また、SVA 職員としての自覚・責任・連帯感を持てるよう、他の事務所と連携しながら研修等を実施し、アフガン事務所としての総合力(チーム力)をアップする。 ③危機管理の充実を図る
図書館事業	<ul style="list-style-type: none"> ①絵本出版6タイトル中1タイトル完成し、残りは絵付け及び印刷を残すばかりである。 ②07年度のワークショップに関しては、資金調達が遅れ、10月15日より事業開始となった。年内の実施を目指している。 ③移動図書箱活動は、月に1度のペースで実施した。 ④建設校舎への学校図書室に関しても完了した。 ⑤子ども図書館の通常活動を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①絵本出版で新規画家の獲得を試みたが、獲得に至らなかった。 ②資金未調達のため、実施できなかった。 ③治安不安にて、実施回数が見直しが必要となった。 ④子ども図書館の資金未調達により、新規活動の充実が遅れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①本・紙芝居出版は、絵本(ダリ語600冊、パシュトン語600冊)を8タイトル、紙芝居(200セット)を2タイトル出版する。 ②教員ワークショップは、州教育局の職員4名と共に、市内22校、郡部10校の一般教員を対象に実施する。 ③図書箱活動は、:24校で実施する。 ④学校図書室は、新たに校舎が完成する予定の3校で開設し、約700冊の本を設置する。 ⑤子ども図書館では、図書普及活動を実際に行う場として、また図書館関係の行政官、教員、図書館員が図書館活動への理解を深める場としてモデル図書館となるよう努力する。
学校建設事業	<ul style="list-style-type: none"> ①大規模校2校及び民間支援による学校1校が完了した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①経済省への登録に対しての詳細が不明。 ②物価の高騰。 ③支出管理。 ④質の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ①大規模学校2棟(13教室の内、1教室は図書室用)、小規模学校1棟(4教室)を建設する。建設後、校舎の修繕方法や衛生(トイレ使用)指導の他、地震災害時の心得などを織り込んだワークショップを実施する ②図書館活動との連携により、図書室の運営指導、移動図書箱活動、図書館員のためのワークショップを実施する。 ③建設担当職員の耐震工事に関する技術習得に努める。

6) 日本国内事業

事業名	2007年度中間事業報告(成果)	2007年度上半期の課題	2008年度事業計画案(●重点事項)
チャイルド・ブック・サポーター、会員	①登録件数:2007年1-6月の新規登録口数 90 口、 87 名(目標 400 口) ※累積登録数 363 口、退会者 2007 年1-6月で合計 14 口 ②イベント:4月 20 日、ノッポさんイベントを実施(173 名の参加、うちサポーターは 30 名)。一般にSVAの活動を広報できたことと、少数ではあるがサポーター登録やツアー参加等の成果が見られる。 ③サポーター対応:ウェルカムセット改訂 4 カ国分終了。 5 月に子どもから感謝状を送付、好評を得る。 8 月にラオスツアー実施(26 名参加)予定、 9 月初めに報告書送付予定。 ④広報: 3 月に新パンフ作成。ノッポさんインタビュー記事掲載。資料請求ハガキを料金別納にしたことにより、請求率、申込率ともにアップ。 ⑤企業協賛依頼: 3 月にコンビ、日産が各ミニ絵本 3000 部。合計 6000 部協賛。他数社に依頼を行うが、成果なし。 ⑥会員:07年9月末会員数 2162 名。(内、口座振替 870 名)(前年度同期 2413 名 内、口座振替 882 名)	①広報:情報発信を心がけ、 20 口/月のペースを保つ。 ②支援者対応:できるだけ成果を実感してもらえるよう、サポーターへのきめ細かい情報発信、交流を通じ、連帯感を持ってもらうように努める。 ③企業協賛:ミニ絵本への協賛について。企業の関心が薄いため、今後の扱いを再度検討しなおす。 ④予算達成:ツアー収益、その他募金で目標予算の達成に向け努力する。 ⑤海外事務所との調整:子どもの手紙と写真、訳を依頼。各国で 130 通ずつ。 08 年春 600 通発送する。	①広報戦略:外部コンサルティングも活用しながら、SVAに適した広報を展開する。 ②3年間のサポーター獲得目標数を 1,500 口とし、3年計画の初年度として新規 240 口(累計 686)を目標とする。 ③企業協力によるCBSのアピール(東横インホテル) ④支援者対応イベント(助成金が交付され次第):サポーター、会員との意見交換会を実施する。東海地区、山陰地区で実施の予定。 ⑤ツアー実施:時期・訪問地も含めて、支援者の声を聞きながら、企画を立てる。 ⑥会員管理 会員数維持・継続を目指す。
クラフト・エイド及びリサイクル・ブック・エイド	①主な活動:1-3月 07年新カタログ製作、4月 新カタログ・新リサイクル・ブック・エイドリーフレット配布開始、6月 生産者団体調、 10 月 チャリティーライブ(カーサクラシカ)/クラフトエイドワークショップ(早稲田奉仕園) ②達成状況: クラフト・エイド 上半期売上 目標: 16,600 実績: 17,831 達成率: 107% 上半期粗利 目標: 9,960 実績: 11,320 達成率: 114% ※ 10 月 16 日現在 27000 (千円) 年度目標達成率 82% リサイクル・ブック・エイド 1,447 (千円) 達成率: 20.6% ③めざましい成果: ・朝日新聞などへの掲載により、新規の方へのカタログ配布ができ、通販部門が伸びている。 ・梅花大会記念品を宗教部門との連携で始め、成果が出ている。	①PC 新管理システム導入の遅れ。 ②販売価格及び粗利の設定基準:生産者団体に還元する率が公正な価格かどうか見直す。 ③業務分担:インターンとボランティア募集の強化で人員確保をはかり、業務の効率化を進める。 ④リサイクル・ブック・エイド:新リーフレットが完成し配布に力を入れてきたが、大きな伸びにはつながっていない。広報戦略の見直し。 ⑤カタログ製作:商品の見せ方・商品開発に係わる外部アドバイスを積極的に活用し、 08 年度カタログの充実を図る。	① 通販部門の顧客拡大:クラフト通販カタログの内容充実をはかり、新規の個人通信販売層を開拓する。 ② リサイクル・ブック・エイドの拡販:企業・学校の他に一般個人への広報を拡大させる。マスコミへの営業活動を積極的に進めていく。 ③クラフトエイド・ワークショップ:主に通販購買者の増加を目指して地方都市でのワークショップを展開する。 ④資産の整理、不良在庫の減少 ⑤売上分析:商品開発につながりうる売上げ分析を行う。 ⑥Web 販売強化:HPの内容をカタログ同様充実させ、Webを通じた購買者の増加を目指す。

<p>絵本を届ける運動</p>	<p>①4 言語体制への移行(タイトル選定、著作権、パンフレット作成、訳文シート作成、絵本セット内容のリニューアル) ②制作物:参加者 1,000 件へのサンクスカード・報告書送付。公立図書館など 1,800 件とボラセン・国際交流協会 230 件へのポスター送付。申込実績:12,578 冊/1,164 件(2007 年 9 月末現在、年間目標比 69.8%達成) ③タイトル変更・著作権:50 タイトル中 9 タイトルを入れ替え。著作権が不安なもの残り 1 タイトルに。2008 年春差し替え予定タイトルも確定。 ④その他 ・企業との関わり:新たに関係作りをスタートした企業 5 社 ・ボランティア募集強化:毎月約 10 名来所。インターン:2 名。 ・毎月 1 回土曜に絵本作業日開催。 ・絵本通信「とびら」:冬号・夏号・秋号発行。 ・夏の情熱キャンペーン:97 セットの申込、合計 429 冊増。</p>	<p>①PC 新管理システム導入の遅れ。 ②慢性的な人手不足 ③4 カ国に向けた絵本輸送手段の詰め。</p>	<p>①現地のニーズにあわせた絵本の供給:目標 17,000 冊。 ②新規協力者の獲得:個人・団体 400 件、企業 10 社。 ③絵本参加費の改定:石油、絵本代などの値上げを受け、200 円の値上げ(2,000 円→2,200 円、1,800 円→2,000 円)⇒280 万円の収益見込み。 ④絵本参加者の中から新規 CBS サポーターの獲得。 ⑤広報の強化:4 カ国の図書館活動が広く深く理解されるよう、印刷物やWSで積極的にアピール。 ⑥地域社会活性化:「絵本を届ける運動」を通じて、学校、団体、企業の活動が活発化し、地域社会において相互の連携が促進されることを目指す。 ⑦10 周年記念:参加者への報告、事業の強化・見直し、記念キャンペーン。</p>
<p>広報活動</p>	<p>①IT 媒体へのアプローチ:ブログの更新やコンテンツの工夫により、SVAHP 全体のアクセス数が約 3 倍に増えた。インターネット募金を開始。プレスリリースの発信体制が整った。 ②寺院関係広報の拡大:梅花大会などの記念品としてクラフト商品が採用され(7 件)、目標達成。パートの加入により事務効率が向上、宗教部門会議の定例化により連携が進んだ。国際ボランティアの寺募金 8,239 (千円)、年間目標比 55%。 ③定期刊行物:ニュースレター「シャンティ」リニューアル版が内容、装幀とも一新して発刊した。 ④SVA アジアに絵本を届ける運動コンサート Vol.1 の開催。小規模イベントによる、新規層へのアプローチの可能性を感じた。</p>	<p>①シャンティ:リニューアルに伴い、工程管理を綿密に行う必要がある。 ②HP:リニューアル作業に労力がかかり、斬新さの探究ができていない。 ③募金サイト:昨年より減少傾向にある。 ④国際ボランティアの寺:新規獲得はマスアプローチより、ねらいを定めた方が効果的。 ⑤梅花大会での募金、クラフトの販売については、参加者の減少に伴い、募金額が減少している。長期的な見通しが必要。理事、代議員にも応援していただくことも検討したい。</p>	<p>■積極的広報の展開 ①CBS を柱として SVA の認知度を高める広報戦略強化。 ②他課と連携した広報ツールの開発、報告会の運営など。 ③HP の内容充実(ストーリーのあるページを増やす)。 ④アクセス解析によるさらなるアクセスアップ。 ⑤ブログの充実。 ⑥チャリティ寄席などを通し、宗教部門の新規支援者の獲得。年間10ヶ所を目標とする。 ⑦「シャンティ」の年 4 回発行によって、継続支援を促進。 ■資金調達 ①宗教法人部門の発信力強化、国際ボランティアの寺加入促進。 ②梅花営業の強化(記念品営業、募金増)。 ③夏募金、歳末募金のサポート。</p>

<p>緊急救援</p>	<p>①07年3月25日発生した能登半島地震支援活動の実施。 ②07年7月16日発生した中越沖地震支援活動の実施。 ③海外の緊急救援活動体制に関して、緊急救援ガイドラインの見直し、事業マニュアルの作成を行う。また、南タイ緊急救援評価事業を実施し、今後のモニタリング・評価システムのベースとする。 ④国内の緊急救援活動体制に関して、事務所圏外で発生した中・大規模災害に対する行動指針の作成に着手した。 ⑤事務所内での防災対策の実施(例年実施している社内での緊急連絡網を人事異動を反映した形で改訂、7月に本番に近い形を想定し抜き打ちで実施。また、事務所内の家具留め工事を行う)。 ⑥JPFのNGO正会員としての活動(総会での議決など)。 ⑦防災に関する活動の実施(防災サバイバルキャンプ、三宅島研修)。 ⑧災害発生時に備えた日頃からのネットワーキング。</p>	<p>①国内救援事業実施体制の整備(支援体制、出動の判断、他課との連携、曹洞宗や他ネットワークとの関わり、事業実施期間の設定、後方支援体制の見直しなど含めたガイドラインの作成)。 ②防災寺子屋をはじめとした防災事業の位置づけの明確化。 ③海外救援事業の未実施(国内救援事業と重複した場合の判断や、出動基準などの再度検討する必要あり)。</p>	<p>①国内救援事業を円滑に行うためのシステム・人材体制・情報共有方法の確立(ガイドラインおよびマニュアル作成、ネットワークの強化を含む)。 ②海外救援事業の整備と再検討(過去の活動を整備し、特に「緊急救援時の教育支援」としてまとめる)。 ③他課との連携をはかる(連携方法を検討)。 ④「防災寺子屋」の実施マニュアル整備、災害サポーターチームとの連携を継続実施。 ⑤災害関係団体、関係者とのネットワーキングを継続実施。 ⑥海外および国内での緊急救援事業の積極的な実施。</p>
<p>海外事業支援</p>	<p>①「海外事業の指定寄付・助成金調達」の目標(合計39,900万円)のうち、公的資金はほぼ計画を達成した。 ②「教育協力事業の改善」では各事務所(アフガニスタン事務所を除く)の経理担当者がバンコクで集い、研修会を実施した。また、ACCUの委託事業により、図書出版に関するワークショップを東京で行い、カンボジア、ミャンマー難民事業、アフガニスタン事務所の現地スタッフが参加した。 ③フェーズ終了に伴う事業評価をタイ、カンボジア、ラオス事務所でを行い、新フェーズの事業計画を提出するサポートを行った。 ④各国事務所の人材育成計画の第1フェーズ(05～07年)の評価及び第2フェーズ(08～10年)の立案のサポート及び調整を行った。 ⑤アフガニスタン事務所が治安悪化により、日本人スタッフは7月下旬に引き上げて、現地スタッフの運営体制に当面切り替えた。 ⑥「NGO海外研修プログラム」には、春季9名、夏季4名の参加があった。 ⑦政策提言・NGOネットワーク参加」は、カンボジア市民フォーラム、NGO-労働組合国際協働フォーラム、日本アフガニスタンNGOネットワークなどに取り組んだ。</p>	<p>①民間資金の調達が対象国によって難航している。新規の資金提供者の開拓が大きな課題となった。また、ミャンマー難民事業において、公的資金が取れなかった期間があり、自己資金での対応を余儀なくされた。 ②フェーズ変更に伴う事業評価の時間が足りず、十分とは言えなかった。今後は、余裕を持った計画が必要である。 ③他課(特に、広報)との連携が不十分な点があり、さらに、推し進める必要がある。 ④現地スタッフのみによる、当面のアフガニスタン事務所の運営体制の確立。</p>	<p>①海外事業の指定寄付・助成金調達。 ②他の課との協力により、資金調達及び広報活動を推進する。 ③教育協力事業の改善(人材育成支援、事業運営・事業評価への支援)。 ④研修交流事業の推進(各種交流事業、海外研修プログラムの継続など)。 ⑤政策提言・NGOのネットワーク参加(カンボジア市民フォーラム、JCBL、JANN、PARINAC、NGO-労組協働フォーラム、など)。</p>

<p>ネットワーク・政策提言・企画調査</p>	<p>①JICA委託によるミャンマー(ビルマ)カレン州でのコミュニティ図書館事業の形成調査を実施したが、政情不安から当面見送り。</p> <p>②教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)の事務局を務め、教育協力の政策提言で、G8NGO フォーラム基礎教育・児童労働ワーキンググループ事務局担当。能力強化は学習会・ワークショップなど実施。</p> <p>③SVA 各課のリソースを活用した教材作成進行。海外事業評価実施。</p> <p>④SVA の理念に合致した ODA 関係のコンサルティング案件受注実施し、収益 1,000 万円を達成(契約ベース)。</p>	<p>①EFA のための政策提言の更なる強化。</p> <p>②SVA の経験、知見を活かした ODA 事業への参加、コンサルティング業務の推進。</p>	<p>① SVA の理念に合致した事業のコンサルティング業務実施(収益 1,100 万円)。</p> <p>②08 年 8 月の洞爺湖サミットに向けた、G8NGO フォーラム基礎教育・児童労働ワーキンググループ事務局担当を含め、教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)の事務局を務め、政策提言、能力強化活動を推進。</p> <p>③SVA 職員向け教育協力に関する研修会実施。</p>
-------------------------	--	--	---